

平成30年度 第1回 東近江市市民協働推進委員会 会議録

◆開催日時 平成30年7月12日（木）午後7：00～9：20

◆開催場所 東近江市市役所新館 311会議室

◆出席者

市民協働推進委員 深尾昌峰、小森秀樹、塚本喜久藏、大橋正徳、森下瑠美、藤澤彰祐、  
小嶋一浩、金子泉美、園田由未子、小島なぎさ、山本十三、奥田新悟、  
井上文子（欠席：大林恵子、辻薫）

事務局 野神総務部理事、まちづくり協働課 曾羽、久保、込山  
（傍聴者：0人）

◆議事

- 1 正・副委員長の選出について
- 2 委員会の概要等について
- 3 意見交換（協働で取り組むしくみ）
- 4 『共に考え、共に創る わがまち協働大賞』について

◆会議録

開会

**【事務局より開会のあいさつ】**

\*初回の会議のため、議事の進行は委員長・副委員長選考まで事務局で行い、その後の進行は委員長にお願いする。

（理事あいさつ）

皆さん、こんばんは。本日は、平成30年度の第1回の市民協働推進委員会を開催させて頂きましたところ、委員の皆様には公私御多用のところ、御出席を賜り誠にありがとうございます。日頃から皆様方には、東近江のまちづくりに、それぞれのお立場から格別のお力添えを賜っておりますことを厚くお礼を申し上げます。

また、このたびは、市民の皆さんと行政が共に手を携えて豊かな地域社会を創っていこうと、市民協働推進委員会の委員就任をお願いしましたところ、快くお受けいただき、また、公募委員の皆様には、積極的な御参加をいただきまして、重ねてお礼を申し上げます。

さて、本市では、市民や市が互いの特性を生かしながら協力し、地域の課題解決を図る「市民と行政の協働」を基本的な考え方として、まちづくりを進めています。平成26年度には「東近江市協働のまちづくり条例」及び「東近江市市民協働推進計画」を市民参加で作成し、この計画に基づき「協働」の取組を進めています。簡単に「協働」と言いましても、市民と行政、立場の異なる者同士が共通の問題意識を持って、共に行動しようとすることは、容易なことではありませんが、東近江市には、昔から「協働」の下地があったと思っています。

湖東平野に数多くあります農村集落では、農作業や道普請、川普請、祭礼行事など、自分たちのことは自分たちですという惣村自治の歴史がありました。また、今日の企業の社会貢献活動、CSRの先駆けとなった近江商人の「三方よし」の精神は、「協働」を実践するための精神的支柱とも言えます。そして今日では、自治会、まちづくり協議会やNPO、ボランティア

グループ等、様々な形の市民活動が、地域社会に息づくようになりつつあります。

このような中で、協働によるまちづくりの指針として作成した「協働のまちづくり条例」や「市民協働推進計画」を実効性あるものにし、総合的・計画的に推進するための仕組みや制度などについて皆さんで御検討いただきたいと思います。継続して委員に就任いただいている方もいらっしゃると思いますが、昨年度までの市民協働推進委員会では「わがまち協働大賞」や「若い世代のまちづくりへの参加促進」、「市民協働推進計画の評価と検証」などについて御議論いただき、その議論を踏まえて制度化や実施につながった取組もごございます。

今後は、これらの取組をさらに充実したものにするための検討や、新たに取り組むべきことについても御意見を頂戴できればと思います。併せまして、市民参加や協働によるまちづくりがより推進されるために共に活動したり、情報提供や提案も頂けたらと思います。

今後2年間、東近江のまちづくりについて皆様方の豊かな御経験と御見識から忌憚のない御意見、御提言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の益々の御健勝と御活躍をお祈り申し上げまして、ごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 【委員それぞれによる自己紹介】

\*本日出席の委員12名がそれぞれ自己紹介をする。

その後、事務局4名も自己紹介。(名簿参照)

### 【正・副委員長の選出】

委員長・副委員長の選出について、東近江市協働のまちづく条例施行規則第9条の規定により選出される。委員長に龍谷大学の深尾昌峰先生、副委員長に東近江市青少年育成市民会議の大橋正徳さんが選出される。(全員賛成)

(大橋副委員長あいさつ)

私も当初は公募委員だったのですが、今回から選出委員で関わっております。なぜ当初応募したかという、合併した後の1市6町のいろんな方の話を聞くことができること、若い人達の意見を取り入れていきたいということや、そういう場を作りたいと思ったのが理由です。70歳手前ですがまだまだ教えていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(深尾委員長あいさつ)

改めまして、みなさんよろしくお願いします。私自身は地域づくり、いろんな仕組みをつかって、いかに上手く動かすかということを実践的にやっている大学の教員ではありますが、現場に入りながらいろんなことをやっています。東近江市も約10年くらい関わらせていただいている、私は宇治市に住んでいるのですが、外から見ても魅力的なまちだと思っています。

この委員会は筋書きがあまりなく、委員のみなさんで仕事を作ったり議論を増やしたり、一緒にやっという空気があるので、覚悟してください。みんながまちのことが好きで、もっと良くしていきたいという思いが募っているので、委員のみなさん自身が動いて仕組みを動かしているようなことがあります。

今日も意見交換の時間がありますが、まちづくりは暮らしの話ですので、知ってる知ってないとか、新しい委員だからということとは関係ありません。暮らしや仕事をしている中で感じ

ておられることがたくさんあると思いますので、臆せず、活発な意見交換をよろしく願います。

今日は、この委員会がこれまでどんなことをしてきたかというような概要、東近江市の合併後のまちづくりのあゆみ、また協働のまちづくりがどうして必要なのかという話をして、その後、これまでのあゆみを受けて、次の20年に向けて何が必要なのかという論点出しをしたいと思っています。前半はインプットですが、後半はどんどん論点を出してざっくばらんに意見交換をしていただければと思います。では、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

#### 【東近江市市民協働推進委員会の概要等】

- \*委員会設置の趣旨、委員会の役割、任期等、具体的な活動内容、平成28～29年度の内容や様子(資料1)について資料に基づき説明。
- \*今年度のスケジュール、検討事項(資料2)、市民協働推進計画の進捗状況(資料3)の説明
- \*東近江市誕生後の協働のまちづくりのあゆみ(資料4)、協働のまちづくりの生態系(資料5)に基づき、成果と課題について説明

(委員長)

質問や気になったことなどありますか。後半では、皆さん方の生活や仕事や所属しているところから、まちづくりはもっとうちしたい、こういう点が問題だといった内容を話し合いたいのですが、眼差しを合わせるために、私から少しだけ話をしようと思います。

今、日本の国家予算はどのくらいかご存じですか? だいたい100兆円くらいです。では、その中で社会保障費にいくら使っているのでしょうか。だいたい46兆円くらいです。100兆円のうち半分は国債なので、税収のほとんどが社会保障費に使われていることになります。2040年、20年後の予測値は80兆円になります。人は減っていきます。これまでの社会は人がどんどん増えてきたので、人が増えることを前提にした仕組みになっています。ただ、2010年代になってから人が減ってきているので、長い歴史の中で時代の変わり目になってきています。今は1億2千万人くらいですが、人口推計では2060年、現在若い世代が高齢者と呼ばれる時代には8600万人くらいになります。こう考えたときに、社会保障がこのまま続けていくということは無理だということは明らかですが、国はきっと何もしてくれません。今の税収構造では消費税を30%にしても厳しいと思います。また、食糧自給率はカロリーベースで38%しかありません。私たちが食べているものの約4割くらいしか自分たちで作れていないのです。食糧安定保証という言葉も飛び交っています。そういうことを重ね合わせると、私たちが安心して暮らしていけるという基盤がかなりこれまでとこれからでは違ってくるのではないかということが言われています。そう考えると東近江市にある農業の基盤、美味しいお米や作物が採れて、食べられる環境があるというのは宝物ですよ。それが実は仕組みとしてはなくて、先ほど紹介があった農業商社(東近江アグリステーション)を作ったということはずごいと思います。地域内で循環するような仕組みがなくて、東近江市のスーパーに行っても他の県で作った野菜ばかりが売られていて、東近江市産のものをスーパーで買うことが出来ない。だから、そういう仕組みを作るんだといって地域商社が出来ました。

今の不安定化していく社会、例えば食べ物が重要になってくる社会では、自分たちの地域で

作った野菜を自分たちで食べられるということは、ものすごく豊かなことです。そういうこともまちづくりとして、地域が地域としてあり続けるとか、安心して子育てが出来るとか、暮らしていけるという基盤が今までとこれからは大きく変わってきているということが見えてきています。

そういう中で、創造的な基盤というか、地域で商売していることもまちづくりなのです。儲からないけどやっていて、地域を代表するものは、誇りにもなってると思いますし、儲かるから東京に移しましょうという話にも乗られないと思います。自分達の地域ということがあって、そこでやるからこそ意味があるというような商売はまちの中にいっぱいあります。いろんなことを巻き込んでいたりとか、商売自体がまちづくりにどんどんつながっていています。商工会の青年部の活動を一生懸命されていたり、まちづくり活動をされていたり、飲みながら真剣にまちのことを論じていたりするわけです。経済的にみれば、何のために商売しているか分からないという人もたくさんいますが、それは、損得だけで人は動いていなくて、自分たちのまちが好きだとか、自分たちのまちをよくしたいという人がたくさんおられるからです。

まちづくりは、行政とNPOやまちづくり団体という捉え方をしてきましたが、先ほどの農業という分野でも、自分達が安心して暮らしていくとか、豊かに暮らすという文脈では、一緒になって考えないといけません。農業の担い手もみんなで支えなければいけないし、できれば自分達の地域の農業の担い手を支えるということであれば、出来た作物を買ってあげなければいけない、そういう仕組みが必要だというように、どんどんいろんなことがつながっていかないと自分達の暮らしや良いまちにはしていけないと思います。一方で、課題を抱えている人達もたくさんいます。働きづらさを抱えていたり、高齢者や認知症の人、子育て中のお父さん、お母さんもそうかもしれません。いろんな課題を抱えている人の困りごとをきちんと拾い上げることが出来て、どうやったら支えていけるかということも、人が生きていくという文脈では考えなければいけません。

そういうことを、時代性も含めて真剣に考えられる地域とそうではない地域があります。東近江市は伝わるまちだと思っています。同じことを別のところで言っても伝わらないまちもたくさんあります。何がルーツなのかは分かりませんが、まちづくりの話をするときに、いろんなことをやってる人達の姿が思い浮かんできます。まちづくりの担い手は誰なのかというと、総力戦なのです。

今、国連が2030年までにこういう社会にしていこうという持続開発目標（SDGs）を掲げていて、みんなの合い言葉になってきています。これは企業でもそうだとしてくれる人たちが多くなってきています。そういう社会をみんなで作りたいよねというように、共通言語になってきています。ある意味で、東近江市として全体がどう共有しながらまちづくりを進めていくか、もっといえば、東近江市というくくりがもしかすると生活文化の中ではあまり意味がないかもしれません。御園、五個荘というそれぞれの地区単位の方が物事を考えやすかったり、逆に考えにくかったりします。取組のサイズ感も議論しながら、眼差しとしては、住みやすい地域は自分たちで創るしかないし、行政が出来ることががんばってやってもらうということです。行政はお金も人も無くなってきて、1人あたりの仕事量も昔に比べると格段に増えてきている一方で、地域の課題も増えてきています。今までどおりやっただけという立ちゆかないし、みんなで考えていくしかない。そういう意味では市民の事務局としての市役所と、まちの主人公である生活者としての市民がみんなできんなことを解決できるというのが理想

です。一挙に理想的な空間は生まれませんが、気づいた人達が楽しみながらやっていくことが必要です。例えば、びわこジャズ東近江もとっても楽しいですね。実際にやっている人は大変だと思いますが、このイベントでいろんなものが見えたり、こんな人たちが関わっているんだとか、まちのいろんな資源が見えてきます。こういった取組が出来ているまちはすごいと思います。いろんな取組を動かしながら、みんなが楽しみながらまちづくりに飛び出してきたり、そして、本当に重たい課題を持っている人がつぶやけて、そのつぶやきがいろんな支援者につながっていく、その仕組みをどう作れるか、今ある仕組みをもっと良い形にするにはどうすればいいかということをも未来指向で考えていきたいと思っています。初めから完璧というのは出来ないで、皆さん方と議論をしていくことがこの委員会の役割です。

協働大賞でも若い人にまちづくりに興味を持ってほしいという課題が出ました。若い人達に地域のことを考えてほしいということで、去年から協働大賞の審査に加わってもらいました。その時に、中学生達は真剣に考えてくれました。まちの中にはこんなことをしている大人たちがいるんだということを見てくれたので、それだけでも意味があると思います。そして表彰式では中学生から直接団体に賞状を渡す役割をしてくれました。その前の年に中学校でまちづくりの話をしたときも、非常に熱心に議論をしてくれました。その議論の中では要望として、「これ以上田園風景を壊さないでほしい」という意見も出ていました。若い人たちの田園回帰思考や地元志向ということとつながっていて、今の若い世代はそういうことを感じたり考えたりしているんですね。どうやったら今の若者の意見が組上に載るかということも話し合った結果、協働大賞の審査につながっています。

今やっている取組をより良くしていくということと同時に、もっとこういうことも必要だという話をこれからやっていただきたいと思っています。

今までの10年の振り返りをしましたので、今からは2グループに分かれて、今後10年を考えて、まちづくりをしていく中でどういうことが必要なのか、何が足りないのか、何が課題なのかということをフリーで話し合いながら論点出しをしていきたいと思っています。

### 【意見交換】

\* 次回の委員会で各グループの内容を共有し、今後話し合っていくテーマを決定する。

(事務局)

### 【「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞について】

\* 資料6に基づき「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞の概要を説明。

\* 今後のスケジュールと第1次選考について依頼（資料7、8、9）。

\* 事例エントリーへの呼びかけ、協賛についても協力依頼。

### 【事務連絡】

\* 次回の開催日は、9月12日の午後7時から

閉会